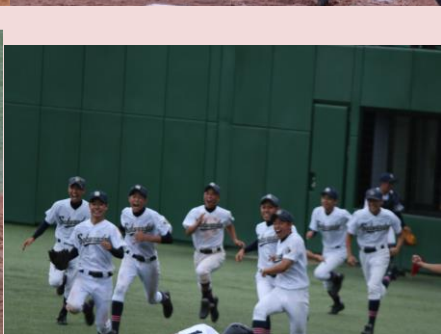
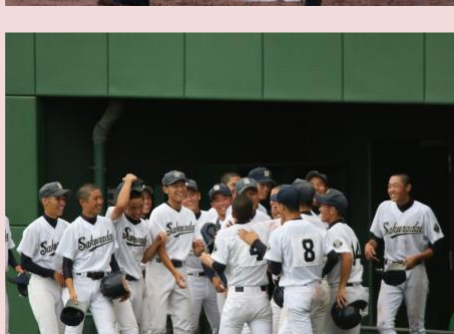
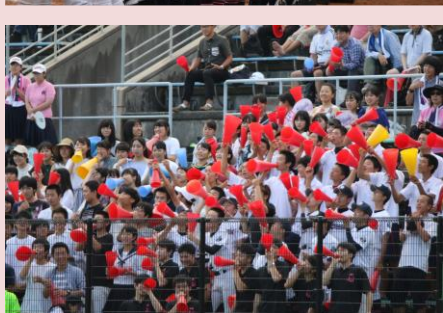


桜台高校野球部



文武両道で熱い青春を送ろう！

名古屋市立桜台高等学校

野球部監督 加藤 直樹

TEL(052)821-0186

〈 桜台高校野球部の取り組み 〉

甲子園出場が最大の目標ですが、まずは、夏の大会5回戦に進出すること、春季大会・秋季大会の県大会に出場し3回戦に進出することなど、桜台高校野球部の新しい歴史を刻むことを大きな目標としています。

毎週土曜、日曜は、甲子園出場経験のある名門校や強豪私学・県外強豪校・県大会常連校などとも練習試合を重ねることで野球観を高めるとともに課題を見つけています。そして、毎日の練習を通して課題を克服し、精神力・技術・体力を向上させ、「打倒私学」を合い言葉に、目標達成に向けて頑張っています。

野球部員は、文武両道を実践し、「最小時間・最大効率」をテーマに、主体性を持って野球部の練習に一生懸命取り組んでいます。また、野球や勉強だけでなく学校生活・家庭生活にも自主自律を意識し、毎日充実した生活を送っています。野球部では、「心が身体を動かす」、「心が変われば……人生が変わる」など「心」をテーマに、礼儀を重んじ、人間的成長を大切にしながら活動しています。

野球部員は、優しくまじめな生徒ばかりです。野球の技術や体力はまだまだ成長途中ではありますが、高校野球に真剣に取り組む姿勢はすばらしいものがあります。チームには、明るく元気で前向きな雰囲気があります。大好きな野球を頑張ることは当たり前。その環境を支えてくれるすべての人に対して感謝する気持ちを大切に、感動を与えられるチームを目指しています。

また、卒業後の進路ですが、多くの生徒は、名古屋大学・名古屋工業大学・愛知教育大学・名古屋市立大学・三重大学・静岡大学など東海地区の国公立大学を目指しています。また私立大学では、慶応大学・早稲田大学・同志社大学・立命館大学・南山大学などへの大学進学を視野に入れながら野球と勉強の両立を目指しています。近年では、大学で野球を続けてくれている卒業生が増えており、とてもうれしく思います。

〈 中学3年生の野球が大好きなみなさまへ 〉

野球が大好きで、大学進学を目指し、文武両道のもと真剣に高校野球をしたいという思いがありましたら、ぜひ桜台高校を進路の選択肢に入れてください。きっと充実した高校生活が送れるはずです。

発展途上のチームですが、まずは、夏大会の勝利、春季大会・秋季大会の県大会出場、市立大会優勝を目標にしています。そして、桜台野球部の新しい歴史「春・秋の県大会3回戦」「夏大会5回戦」、その先にある甲子園出場を目標に、毎日一生懸命練習に取り組んでいます。

桜台高校の野球部員は、優しくまじめで何事にも一生懸命取り組む生徒ばかりです。

野球の技術や体力はまだまだ成長途中ではありますが、高校野球に真剣に取り組む姿勢はすばらしいものがあります。朝練習は大変ですが、保護者の方の理解と協力のもと、高校野球を通して家族の絆を強めてもらえるよう、感謝の気持ちを言葉や行動で表現することを大切に活動しています。

現在、部員3年生10名、2年生16名、1年生9名、女子マネジャー2名の計37名(R6.5.1現在)で活動しています。

野球が大好きで真剣に高校野球に取り組みたい人は、ぜひ桜台高校でその力を発揮してください。

文武両道が不安な人もいるかと思いますが、先輩たちも国公立大学を目標に野球と勉強を両立させています。練習後に塾に通って勉強している部員もたくさんいます。限られた練習時間、練習環境の中で、高いレベルの文武両道を目指して一緒にチャレンジしていきましょう。

桜台高校へ入学して、野球を通じて一緒に成長できることを楽しみに待っています。

桜台高校野球部 大会成績

令和6年秋～令和7年夏の大会成績 (主将：中西)

秋季大会 (R6.8)	市立大会 (R6.8)	春季大会 (R7.3)	夏の大会 (R7.7)
〈1次予選〉 ×桜台 1-3名経大高蔵 ○桜台13-12 昭和 ×桜台 9-16 同朋	〈1回戦〉 ○桜台 10-3 山田 〈2回戦〉 ○桜台 4-3名市工業 〈決勝戦〉 ×桜台 0-5 向陽 準優勝		

市立大会準優勝

令和5年秋～令和6年夏の大会成績 (主将：鈴木)

秋季大会 (R5.8)	市立大会 (R5.8)	春季大会 (R6.3)	夏の大会 (R6.7)
〈1次予選〉 ×桜台 2-5瀬戸工瀬戸北 ○桜台12-0 春日井工 ○桜台 9-1 東郷 ×桜台 2-3瀬戸工瀬戸北	〈1回戦〉 ○桜台 8-6 菊里 〈2回戦〉 ○桜台 12-6名市工芸 〈決勝戦〉 ×桜台 1-10 向陽 準優勝	〈1次予選〉 ○桜台 8-5 大同 ×桜台 1-6 向陽 ×桜台 3-4大同	〈1回戦〉 ○桜台 5-4 同朋 〈2回戦〉 ×桜台 0-5愛知黎明

市立大会準優勝

令和4年秋～令和5年夏の大会成績 (主将：草野)

秋季大会 (R4.8)	市立大会 (R4.8)	春季大会 (R5.3)	夏の大会 (R5.7)
〈1次予選〉 ○桜台14-5瀬戸北総合 ×桜台 4-5 菊華 ○桜台 8-2 名市工芸 ×桜台 2-4名経大高蔵	〈1回戦〉 ○桜台 (不戦勝) 向陽 〈2回戦〉 ○桜台 10-3 名東 〈決勝戦〉 台風のため中止 優勝(両校)	〈1次予選〉 ○桜台10-0南陽 ○桜台 4-2名市工業 ○桜台 3-2名経大市邨 ※ブロック優勝 県大会出場決定 〈名古屋地区決勝トーナメント〉 ×桜台 2-20 春日丘 〈県大会〉 ×桜台 0-10 蒲郡	〈1回戦〉 ○桜台12-0岩倉総合 〈2回戦〉 ×桜台 3-7知多翔洋

市立大会優勝

県大会出場

令和3年秋～令和4年夏の大会成績（主将：佐藤駿）

秋季大会（R3.8）	市立大会（R3.8）	春季大会（R4.3）	夏の大会（R4.7）
〈1次予選〉 ×桜台 5-9 瀬戸 （7回降雨コールド） ○桜台10-4 昭和 ○桜台 8-3 瀬戸 ※1次予選2位通過 〈2次予選〉 ○桜台 8-3 旭丘 ×桜台0-14中京大中京	〈1回戦〉 ○桜台 6-2 名東 〈2回戦〉 ○桜台11-2 名市工業 〈決勝戦〉 緊急事態宣言のため中止 優勝（両校）	〈1次予選〉 ×桜台 4-5×中部大一 ○桜台10-3 長久手 ×桜台 7-9 富田	〈1回戦〉 ○桜台10-0豊田高専 〈2回戦〉 ×桜台 2-8 吉良

二次予選進出

市立大会優勝

令和2年秋～令和3年夏の大会成績（主将：酒井）

秋季大会（R2.8）	市立大会（R2.8）	春季大会（R3.3）	夏の大会（R3.7）
〈1次予選〉 ○桜台12-9 名市工芸 ○桜台 8-0 瀬戸窯業 ※ブロック優勝 県大会出場決定 〈名古屋地区決勝トーナメント〉 ○桜台 3-2 名経大市邨 ×桜台 5-12 春日丘 ※名古屋地区5位 〈県大会〉 ×桜台 3-6 碧南	中 止	〈1次予選〉 ○桜台10-3 春日井西 ×桜台 0-7 大同 ○桜台12-5 名東 ※1次予選2位通過 〈2次予選〉 〈県大会決定戦〉 ×桜台 2-4 豊明	〈1回戦〉 ○桜台 7-1名古屋工業 〈2回戦〉 ×桜台 0-10 明和

県大会出場

二次予選進出

令和元年秋～令和2年夏の大会成績（主将：佐藤頼）

秋季大会（R1.8）	市立大会（R1.8）	春季大会（R2.3）	夏季大会（R2.7）
〈1次予選〉 ×桜台 1-8 中部大一 ○桜台 8-2 春日井 ○桜台 8-3 名古屋 ○桜台11-1 日進守山 ※1次予選2位通過 〈2次予選〉 ×桜台 2-3×名経大市邨	〈1回戦〉 ×桜台 4-11名古屋工業	中 止	〈1回戦〉 試合なし 〈2回戦〉 ○桜台 3-2 名東 〈3回戦〉 ○桜台 8-1 天白 〈4回戦〉 ×桜台 3-13 至学館

二次予選進出

平成 3 0 年秋～令和元年夏の大会成績 (主将：玉越)

秋季大会 (H30. 8)	市立大会 (H30. 8)	春季大会 (H31. 3)	夏の大会 (R 1. 7)
〈1 次予選〉 ×桜台 1－5 瑞陵 ○桜台 4－3 春日井 ×桜台 1－14 昭和 〈2位決定戦〉 ○桜台 9－4 瑞陵 ○桜台 6－1 春日井 ※1次予選2位通過 〈2 次予選〉 ×桜台 2－3名古屋工業	〈1 回戦〉 ○桜台 8－7 菊里 〈2 回戦〉 ×桜台 0－3 名東 〈3位決定戦〉 ×桜台 1－2 名市工業	〈1 次予選〉 ×桜台 5－12 明和 ○桜台 5－1 山田 ○桜台14－1 名大附 ×桜台 0－4 明和	〈1 回戦〉 ×桜台 1－10 日進西

二次予選進出

平成 2 9 年秋～3 0 年夏の大会成績 (主将：加藤敦)

秋季大会 (H29. 8)	市立大会 (H29. 8)	春季大会 (H30. 3)	夏の大会 (H30. 7)
〈1 次予選〉 ×桜台 1－2名市工芸 ○桜台 7－3 中村 ×桜台 3－4 菊華 ○桜台 9－2 日進	〈1 回戦〉 ×桜台 0－1 名市工芸	〈1 次予選〉 ×桜台 4－5 名城大附 ○桜台 3－2名古屋工業 ○桜台 4－0 豊明 ×桜台 0－2 名城大附	〈1 回戦〉 ○桜台 3－2 惟信 〈2 回戦〉 ○桜台 5－3 名市工芸 〈3 回戦〉 ×桜台 2－6 天白

過去10年間の野球部員の進路実績

国公立大学

〈中部〉 名古屋大学 ・ 名古屋工業大学 ・ 愛知教育大学 ・ 豊橋科学技術大学
三重大学 ・ 岐阜大学 ・ 静岡大学 ・ 浜松医科大学
信州大学 ・ 金沢大学 ・ 福井大学

愛知県立大学 ・ 名古屋市立大学 ・ 静岡県立大学 ・ 富山県立大学

〈関東〉 東京学芸大学 ・ 東京農工大 ・ 東京海洋大 ・ 埼玉大学

〈関西〉 京都大学 ・ 大阪大学 ・ 神戸大学 ・ 滋賀大学
大阪教育大 ・ 大阪公立大学

〈中国〉 広島大学

〈九州〉 鹿屋体育大学

〈北海道〉 北海道大学

私立大学

〈中部〉 南山大学 ・ 名城大学 ・ 中京大学 ・ 愛知学院大 ・ 藤田医科大学
名古屋学芸大学

〈関東〉 慶応義塾大学 ・ 早稲田大学 ・ 明治大学 ・ 法政大学 ・ 中央大学
明治学院大学

〈関西〉 同志社大学 ・ 立命館大学 ・ 関西大学 ・ 近畿大学

〈九州〉 福岡大学 など

- 野球部員は、国公立大学を目指して、
高いレベルの文武両道を目指しています。
- 大学で野球を続けている卒業生もたくさんいます。

野球部員の出身中学校・中学野球クラブチーム

地下鉄（桜本町駅）・名鉄（桜駅）の駅が近く、交通の便がよいため、
多方面の中学校から通学しています。（最近 10 年間の部員の出身中学）

名古屋市内 <緑 区> 滝ノ水中・扇台中・神沢中・鳴子台中・有松中・東陵中
神の倉中・大高中・鎌倉台中
<天白区> 天白中・原中・南天白中・久方中
<中川区> 一柳中・はとり中・八幡中・長良中
<中村区> 御田中・笈瀬中・日比津中
<瑞穂区> 汐路中・津賀田中・瑞穂ヶ丘中・田光中
<千種区> 今池中・若水中・愛教大附属名古屋中
<名東区> 猪子石中・香流中
<南 区> 明豊中・名南中・大江中
<昭和区> 桜山中・北山中・駒方中・川名中
<北 区> 八王子中・北陵中
<西区> 山田東中・天神山中
<熱田区> 沢上中
<東 区> あずま中
<港区> 港北中・港南中

名古屋市外 <知多市> 旭南中・中部中・八幡中
<豊明市> 豊明中・栄中・沓掛中 <あま市> 美和中
<東郷町> 東郷中・春木中 <清須市> 清洲中
<東海市> 平洲中 <弥富市> 弥富中
<大府市> 大府北中 <犬山市> 城東中
<横須賀市> 横須賀中 <長久手市> 長久手中

○ クラブチームで活躍していた生徒も桜台高校を選んでくれています。

愛知ボーイズ	愛知中央クラブ	愛知知立ボーイズ
愛知知多ボーイズ	尾張ボーイズ	サンリッツ
桑員ボーイズ	瀬戸シニア	中京カーディナルス
豊明クラブ	名古屋中央ボーイズ	名古屋ドジャース
名古屋HBC	鳴海クラブ	西名古屋BBC
尾州ボーイズ	瑞穂ブルーウィングス	緑クラブ
三好東郷ボーイズ	ワイルドボーイズ	FBクラブ
REX名古屋	TKクラブ	Kボール名古屋市選抜チーム
		（五十音順）

〈令和 6 年度 秋季大会 名古屋地区予選 1 次予選惜敗〉

名古屋地区一次予選は、名経大高蔵・桜台・享栄・昭和・同朋の 5 校ブロックでした。

1 回戦の名経大高蔵戦は、初回に犠飛で先取点を取られてしまいました。1 回裏の攻撃で一死 3 塁の好機を作りましたが後続が倒れ、試合の流れと主導権を相手に渡してしまいました。3 回には内野ゴロの間に 1 点を追加されてしまいました。2 回以降は、相手投手の低めに集める丁寧な投球に抑えられ、投手戦になりました。7 回に 1 点を返し、なお無死 1 2 塁の好機でしたが走塁死・スクイズ失敗で追加点を奪うことができませんでした。その直後の 8 回の守備では失策出塁の走者を捕手飛球のベースカバー連携ミスで 1 失点してしまいました。終盤の好機を得点に繋げることができず 1 対 3 で負けてしまいました。

敗者戦 1 回戦は、昭和高校との試合でした。序盤はピンチを凌ぎながら粘り強く戦い、5 回に 4 安打 3 四球で 5 得点し、5 回終了時点で 7 対 2 とリードすることができました。後半は 2 番手 3 番手投手が捕まり、9 回に 9 対 9 の同点に追いつかれてしまいました。延長 10 回タイブレークでは、相手の失策にも助けられ 4 得点することができました。しかし、10 回の守備で四球や失策から 3 失点し、なお無死満塁一打逆転まで追い詰められましたが、最後は三者三振で何とか逃げ切り、13 対 12 という乱打戦を勝つことができました。

敗者戦 2 回戦は、同朋高校との試合でした。夏大会初戦で継続試合の末に接戦を勝利した相手ですが、2 年生中心のチームで夏大会に臨んでおり、新チームの完成度はとても高かったです。立ち上がりに飛球失策から先取点を取られましたが、1 回裏に積極的な攻撃から 5 得点し、主導権を握ることはできました。しかし、相手の粘り強い攻撃にプレッシャーを掛けられ、失点を重ねる展開で 5 回に 2 番手投手が捕まり逆転されてしまいました。攻撃陣も意地を見せ 6 回の攻撃で 9 対 9 の同点に追いつくことができました。しかし、8 回に投捕ミスで逆転されると 9 回は 3・4・5 番手投手が相手の攻撃の流れを食い止めることができず突き放されてしまいました。攻撃陣は 16 安打と奮起しましたが、好機での 4 併殺で試合を一気に押し切ることができませんでした。

2 番手以降の投手の力不足が顕著に表れた大会でした。また、守備の乱れ・与四球・投捕ミスによる無駄な失点が多く、安定した試合運びができずに苦しい展開になってしまいました。打ち取った打球を確実にアウトにする、無駄な四死球を出さないなど無駄な失点を減らすことが大きな課題です。この悔しさを胸に、しっかりと課題に向き合い、基礎基本を大切に練習に取り組み、春季大会では県大会出場を勝ち取りたいと思います。

〈令和 6 年度 市立大会準優勝〉

部員全員の話し合いで主将に中西が決まり、2 年生部員 16 名、1 年生部員 9 名、2 年女子マネジャー 2 名で新チームがスタートしました。自分の持ち味を発揮し、お互いのよさを認め合いながら、伝統である「明るく元気で前向き」な一体感のあるチームに成長することを期待しています。新チームは、最上級生になる 2 年生が 18 名いるので、それぞれが自分の良さを生かしてチームを引っ張ってほしいと思います。また、1 年生は夏大会まで応援の練習に時間を取られ、あまり練習できていなかったのも、思い切り野球を楽しみ、少しでも早く高校野球のスピードやパワー、野球観に慣れ、自分の持ち味を発揮してくれることを期待しています。夏休みは、酷暑対策としてハーフパンツでの練習やテントで日陰を増やすなど、熱中症対策しました。

市立大会 1 回戦は、山田高校との試合でした。練習してきたバント・盗塁をテーマに試合に臨みました。攻撃では、9 犠打・6 盗塁で好機を広げ、10 得点に繋げることができました。守備では、7 イニングで四死球 5、失策 6 と安定した試合運びができませんでした。二番手投手の成長と安定した守備力の課題ができました。試合は 7 回コールド 10 対 3 で勝つことができました。

2 回戦名市工業戦は、ロースコアの試合を想定しました。夏大会を経験した投手荻田が 1 四球で完投しま

した。初回立ち上がりに相手の失策に絡めて3得点することができました。その後は毎回出塁するものの牽制死や盗塁・走塁の判断ミスで好機をつぶし得点できず、嫌な流れになりそうでした。しかし、5回終了後のクーリングタイムで荒川中心に「明るく元気で前向き」な一体感のあるベンチの雰囲気を立て直し、6回に追加点を取ることができました。7回8回に1点ずつ追いつけられましたが、4対3で逃げ切ることができました。しかし、3失点とも外野手の判断ミスでランニング本塁打や三塁打にしたもので、新基準バットへの対応力と球際の強さ・スピードを高める必要があります。

4年連続で決勝進出を決めることができました。

9月の決勝戦は昨年同様、向陽との試合になりました。昨年の悔しさをこの試合にぶつけようと、選手みんなが心をつなげて準備し、試合に臨みました。左腕投手の対策をしたつもりでしたが、その対策を上回られ、1安打完封で手も足も出ませんでした。さすが、野球観の高い好投手だと感心しました。守備では、前半は両投手の好投で0対0でしたが、5回無安打・三盗悪送球で1失点、6回1安打・二死2三塁から打ち取った三塁ゴロをトンネルし2失点、自滅の3失点で相手に主導権を与えてしまいました。9回はコロナから決勝前日に復帰した荻田の制球が乱れ2四球からのスクイズ、三遊間ゴロヒットで2失点し、ダメ押しされてしまい0対5で負けてしまいました。目標の市立大会優勝を2年連続で逃してしまい悔しい思いをしました。しかし、この試合では、コロナで欠席が続いていた投手荻田が、体力低下と練習不足を気力で乗り越えてくれて、とても頼もしく感じました。攻撃でもう少し援護できたらと悔やまれます。好投手からどのように好機を作り、得点に結びつけるかが攻撃面の大きな課題です。

〈令和6年度 夏の大会 2回戦進出〉

この1年間は、秋・春とも名古屋地区2次予選進出をかけた決定戦で、終盤の好機を生かせずに接戦を勝ちきることができず悔しい思いをしました。秋季大会・市立決勝・春季大会とコロナやインフルエンザのためベストメンバーで試合に臨むことができませんでしたが、それを言い訳にすることなく、成長に繋げてきた学年です。特に、エース小野田は万全で大会に臨めたことがなく、これまでの悔しさを晴らす大会でした。

夏大会1回戦は同朋高校との試合でした。雨模様の天候でしたが時間通り試合が始まりました。立ち上がりに原田の安打で好機を作り、相手の失策も絡み2点を先取することができました。4回まで毎回のようには好機を作りましたが、得点に繋がれませんでした。5回に3安打1四球で勢いに乗りましたが、本塁刺殺で追加点は1点止まりでした。先発した2年投手は球のキレ・コントロールとも抜群で、5回まで無安打7三振を奪う力投を見せてくれました。5回を終えたところで雨足が強くなり、5回終了3対0で継続試合になりました。

令和元年度の日進西戦の降雨コールド再試合、昨年令和5年度の知多翔洋戦の雨天継続試合に続く継続試合です。春日井球場での試合は、試合途中の雨天ととても縁があります。どちらもリードした状況からの再開でした。しかし、再試合・継続試合とも再開後に流れが大きく変わり、勝ちきれずに逆転負けをしてしまったので、今回は再開後の試合の入りを大切にしようと伝えました。

再開後は、簡単に三者凡退に終わり、守備では先頭の四球から初安打、タイムリー安打で1点を取られ、前半の流れが途切れてしまいました。しかし、7回・9回に3年の活躍で1点ずつ追加点を取り、5対1で最終回を迎えました。先頭を三振に取りましたが、3連打2失点されたところで投手を小野田に交代しました。1死満塁から犠飛で1点差に迫られました。二死1・2塁の一打同点のピンチでしたが、小野田はさらにギアを上げて気持ちのこもった投球で3球三振で試合を締めくくり、5対4で何とか逃げ切ることができました。

2回戦は、愛知黎明戦でした。甲子園出場経験のある強豪私学ですが、「打倒私学」を掲げて練習に取り組んできた桜台にとって、とてもやりがいのある相手です。1回に外野失策後の4番打者のスクイズと、4回に一塁牽制悪送球後のスクイズで5回までに2失点してしまいました。ミスからの失点が悔やまれます。

5回まで強力打線を4安打に抑えていましたが、5回終了後のグラウンド整備とクーリングタイム後に投球が乱れてしまいました。6回先頭打者初球に死球を与え、その後長打二本打たれ2失点してしまいました。継投でピンチを凌ごうとしましたが、さらに1点を追加されてしまいました。7回から登板した小野田が強力打線を無安打に抑えただけに継投のタイミングが悔やまれます。攻撃では、相手左腕投手の力のある球に押され、1安打抑えられて好機をつくることができませんでした。

打倒私学を掲げて練習に取り組んできましたが、完全に力負けしてしまいました。

〈令和6年度 春季大会 名古屋地区予選 1次予選惜敗〉

名古屋地区一次予選は、大同・桜台・向陽・松蔭・春日井工科の5校ブロックでした。

秋季大会の課題克服と新基準バットへの対応をテーマに大会に臨みました。ミスを引きずらないですぐに切り替えて次のプレーにベストを尽くす。安打を期待するだけでなく、バントや走塁などの機動力で得点を増やす。などの意識を高めて試合に臨みました。

1回戦の大同高校戦は、3年生投手がインフルエンザで2年生投手が先発しました。先攻の立ち上がりには1番打者の出塁、2番送りバント、3番タイムリー二塁打と理想的に得点できました。しかし、1回二死3塁から内野フライ落球で1失点、2回左中間ハーフライナーをチャレンジシグラブに当てて後逸しランニング本塁打にしてしまい1失点と流れをつかみきれませんでした。失点はしましたが、ミスを引きずることなく、ベンチは前向きな雰囲気でした。4回二死から相手のミスにも助けられ4得点、5回下位打線でチャンスを作り上位で返し1得点、6回機動力を使い1得点と5回までに主導権をつかむことができました。2年生投手も12安打されましたが、5・6・7回を1失点ずつで切り抜け、8イニングを無四球で投げ抜きました。二番手投手が9回を無失点に抑え、8対5で勝つことができました。

ブロック決勝は、シード校の向陽高校でした。市立大会決勝で負けた相手です。バッテリーを中心に能力の高い選手が揃うチームで、自分たちの成長を計る絶好の相手です。

1回の守りでは、先頭四球、送りバントの送球落球、バント、スクイズと無安打で先制点を許してしまいました。3回にはエラーが3つ重なり無安打で1失点、1点を返した直後の7回にも失策で出塁の走者をスクイズで帰されてしまいました。7回まで3失点したものの3安打に抑えていた主戦投手に代打を送り得点を期待しましたが得点できませんでした。二番手投手が9回に打ち込まれ3失点し、6対1で負けてしまいました。左腕好投手から、相手を上回る8安打し毎回好機を作りましたが、得点に繋げられませんでした。

2位決定戦は、再び大同高校との対戦になりました。両投手が持ち味を発揮して、3回までは投手戦で進みました。4回6回に長打から失点し、5回6回の攻撃では長打から得点し、2対2で後半に入りました。9回のピンチを何度も練習してきたバント処理で流れを切り、タイブレークに突入しました。10回にはスクイズのサインミスで無失点に終わってしまいました。10回裏は一死23塁から申告敬遠で満塁策をとり勝負に出ました。2年生投手が二者連続で三振を取り無失点で凌ぎました。11回は一死23塁から犠牲フライで1点を取りました。しかし、相手には一死23塁から2点タイムリー安打を打たれ、3対4で負けてしまいました。

春季大会直前から大会中にかけて、延べ10名の生徒がインフルエンザに感染し、毎試合ベンチ入りメンバーと背番号を入れ替えての大会になりましたが、一次予選の3試合を通して、チームに一体感があり、ミスが起きても明るく元気で前向きな雰囲気が持続でき、すばらしいチームに成長していることが実感できる大会でした。しかし、目標の県大会出場を勝ち取ることができませんでした。勝利を逃した原因を見つめ直し、夏大会に向けて「勝てるチーム」に成長するために何が必要かをしっかり分析し、練習に緊張感を持たせながらプレーの質を上げる取り組みをして、秋季大会・春季大会の悔しさを夏大会にぶつきたいと思います。

〈令和5年度 秋季大会 名古屋地区予選 1次予選惜敗〉

名古屋地区一次予選は、桜台・瀬戸工瀬戸北・栄徳・春日井工科・東郷の5校ブロックでした。

1回戦の瀬戸工瀬戸北連合戦は、初回にタイムリー安打、2回にスクイズで得点し、主導権を握ることができました。しかし、5回の守りで内野ゴロ悪送球・バント処理判断の遅れなどのミスから3失点してしまいました。攻撃では、3回以降も好機を作りましたが、得点に繋げることができませんでした。終盤は、持ち前の明るく元気な雰囲気がなくなり、緊張感で思い切りのよいプレーがなくなっていました。9回にも2失点してしまい、2対5で負けてしまいました。

敗者戦1回戦は、春日井工科との試合でした。前日の敗戦を引きずらずに切り替えて、桜台高校らしい雰囲気を大切にしようと試合に臨みました。立ち上がりから思い切りのよいスイングが戻り、16安打12得点で試合を押し切ることができました。投手も毎回走者を背負いながらの投球でしたが、粘り強く投球し、無失点に抑え、12対0で勝つことができました。

敗者戦2回戦は、東郷高校との試合でした。相手投手のレベルが高くロースコアの試合を想定していました。先頭打者鈴木が初球安打で一気に雰囲気が盛り上がり、初回2点、2回1点で主導権を握ることができました。4回1失点後も、6回に2得点し流れを引き戻しました。8回に打線がつながり4得点し、9対1の8回コールドで勝利を掴み取ることができました。

2位決定戦は、再び瀬戸工瀬戸北連合との対戦になりました。前半5回までは、好機は作るものの得点が奪えず、4回に四球から先制を許してしまいました。6回に連打で1点、7回に二死から1点を取り逆転することができました。しかし、7回の守備で四球・悪送球・内野安打・悪送球とミスが重なり2失点で逆転されてしまいました。8・9回の攻撃で一打逆転のチャンスを作りましたが、得点できず2対3で負けてしまいました。

1年生の実戦経験不足が顕著に表れた大会でした。好機での積極性と緊張感のある中での送球やバントのミスが目立ちました。この悔しさを胸に、しっかりと課題に向き合い、基礎基本を大切に練習に取り組み、春季大会では県大会出場を勝ち取りたいと思います。

〈令和5年度 市立大会準優勝〉

主将に鈴木が決まり、新チームがスタートしました。鈴木を中心に桜台の伝統である「明るく元気で前向き」な一体感のあるチームに成長することを期待しています。新チームは、公式戦を経験している生徒が少ない分、これからの成長が楽しみなチームです。また、今年から再開された応援の練習に時間を取られ、1年生の練習が不足してしまいました。1年生が少しでも早く高校野球のスピードやパワー、野球観に慣れ、自分の持ち味を発揮してくれることを期待しています。

夏休みは、市立大会優勝と秋季大会県大会出場を目標に、実戦経験を積むために練習試合を増やしました。チーム目標や徹底事項を再確認して、課題や戦術を共有しながら、やるべきことが整理されてきています。桜台野球部の良さである「明るく・元気に・前向きに」一体感のあるチームを引き継ごうと頑張っています。

市立大会1回戦菊里高校戦は、初回に3安打で2点を先制することができました。しかし、3回に1年生投手が乱れ、2安打4四死球1失策で6失点してしまいました。チームの雰囲気が下がることを心配しましたが、主将鈴木を中心に「ここから絶対逆転するぞ」という一体感が高まり、相手のミスにも助けられながら12安打で4回2点、7回1点、8回3点を取り、逆転することができました。投手陣もよく我慢し、失点した3回以外は無安打に抑え、8対6で勝つことができました。前半で劣勢になりましたが、9イニング勝負を見据えて、決して最後まで諦めずに一体感を持ち全員で掴み取った勝利でした。

2回戦の名市工芸高校戦は、点の取り合いを予想しました。初回到2四死球から先制されましたが、取られたら取り返すという展開になり、3回3点、5回4点、7回4点など3得点以上のイニングを作ることができ、10安打で効果的に得点し、勢いで押し切ることができました。投手陣も初回の2四死球後は、ストライク先行を心がけ、カウントを不利にしないよう修正し、2回以降は無四球で抑えました。8安打されましたが、投手陣がそれぞれの持ち味を発揮して、12対6で勝つことができました。

9月18日に行われた決勝戦の相手は向陽高校でした。文化祭後のコロナによる3日間の休校とその後の学級閉鎖の継続などで1週間練習ができず、前日に背番号を自宅まで持って行くなどして、なんとか試合に間に合いました。新チーム始動から、市立大会優勝を目標の一つとして練習してきましたが、文化祭準備からコロナ休校・学級閉鎖と続いた練習中止は、如何ともし難いものがありました。5回まで1対3と粘り強く戦っていましたが、6回、8回に先頭打者への四球から失点を重ねてしまいました。攻撃では向陽の左腕好投手に4安打に抑えられ、1対10の一方的な展開で負けてしまいました。生徒は今年こそ決勝を戦って優勝を勝ち取ると強い気持ちで練習に取り組んできただけにとても残念です。しかし、コロナによる練習不足を言い訳にせず、市立大会優勝を逃した現実を正面から受け止め、自分たちの力不足に目を向け、これから成長していこうとする生徒たちを心強く思います。

〈令和5年度 夏の大会 2回戦進出〉

秋季大会の悔しさをバネに冬季練習で大きく成長し、春季大会名古屋地区予選ブロック1位で県大会を勝ち取り、県大会1回戦で大きな課題を見つけて、夏に向けて課題を克服し、集大成として臨んだ大会でした。

夏大会1回戦は岩倉総合高校との試合でした。初回到相手のミスにも助けられ清水の3塁打などで3点を先取し、一気に雰囲気盛り上がりしました。3回4点、2回1点、5回4点を加え、投手陣も相手を2安打に抑え、理想的な展開で勝利をつかむことができました。3年生全員が出場し、3年間の努力の成果を発揮してくれたことがとてもうれしかったです。

2回戦は知多翔洋高校との試合でした。雨模様での試合開始でしたが、両投手が安定した立ち上がりで3回まで0対0で試合が進みました。3回を終了した時点で雨が強まり、中断を経て、継続試合になりました。とても多くの人が応援に駆けつけてくださり最後まで試合をしたかったです。

継続試合は平日に行われました。授業のため一般生徒は応援に駆けつけることができませんでした。前日には、クラスメイトや他の部活動の生徒から「頑張って」「絶対に勝って。次は応援に行けるから」など多くの人から声を掛けてもらえました。学校生活を通して、部員の人柄のよさや何事にも真摯に取り組む姿勢が周囲の人たちを引きつけていることを実感しました。

4回から始まった継続試合は、立ち上がりから一気に攻めようと試合に臨みました。投手八城が3者凡退に抑え、攻撃では4安打で2点を先取し、主導権を握ることができました。投手八城は安定した投球で7回まで散発4安打に抑え、7回の攻撃では下位打線で追加点を挙げ、3対0で8・9回を迎えました。8回に走者1・2塁から3点本塁打を打たれ同点にされてしまいました。投手の調子がよかっただけに一球で試合の雰囲気が変わり悔やまれる一球になりました。同点にされた8回の攻撃では、先頭が安打で出塁したものの送りバントが決まらず無得点で、嫌な流れで9回に入りました。相手の攻撃は下位打線からでしたが、粘り強く好機を作られ、スクイズを警戒し満塁策にした後にタイムリー安打で1点を取られました。さらに、二死満塁のピンチから走者一掃の二塁打を打たれて突き放されてしまいました。9回の裏の攻撃では、二死満塁の好機を作りましたが、最後は会心の打球が遊撃手に好捕され、3対7で試合が終わってしまいました。

相手を上回る12安打を放ちましたが、相手投手の気持ちのこもった投球に好機であと一本が出ず3得点に終わったことが悔やまれます。

この3年生は、「桜台で高校野球をやりたい」という強い意思を持って入学してきた生徒の多い学年です。

コロナで思う存分野球ができなかった時期もありましたが、主体的に野球に取り組む意識が高く、どんどん成長していきました。野球だけでなく勉強も頑張り、「文武不岐」を合い言葉に、クラスで1番になった生徒が4人もいて、高いレベルでの文武両道を実践しました。素直で明るく、優しい心と前向きな姿勢を兼ね備えた生徒たちは、どこへ出しても恥ずかしくない自慢の生徒たちです。夏の大会では目標を達成することはできませんでしたが、これからの人生で社会に必要とされる人間として活躍することを楽しみにしています。

〈令和5年度 春季県大会 1回戦敗退〉

令和2年秋季大会以来5季ぶりに県大会に出場することができました。

1回戦で蒲郡高校と対戦しました。雨天延期で日程がずれましたが、生徒の「やってやるぞ」という気持ちは強いものがありました。球場や風の影響なども想定し準備しました。

1回先頭打者の安打の後、送りバントを決められず流れを引き寄せることができませんでした。一方、相手は先頭打者の二塁打を確実にバントで送り、犠牲飛球で先取点を取られ、勢いに押され二死から3失点してしまいました。2回も投手八城は調子が上がりさらに3失点を重ねました。2番手投手も蒲郡打線の鋭いスイングと勢いを抑えることができず、名古屋地区決勝トーナメント同様に一方的な展開で負けてしまいました。初回の攻防が試合の流れを決定づけた試合でした。

県大会で「桜台の新しい歴史を刻む」と強い気持ちで臨みましたが、反省点ばかりが残る試合になってしまいました。「投手の立ち上がり」「八城に続く投手の成長」「確実な送りバント」「取れるアウトを確実に取る」など課題はたくさんあります。県大会の敗戦が夏大会に生きるように今まで以上に意識を高く持って練習に取り組む必要があります。久しぶりの春季県大会出場で、年度当初の慌ただしい学校生活の中、教員が練習に出られないときに、生徒がいかに主体性を持って目標や課題に向き合いながら練習に取り組むことが大切なのかを実感しました。

この県大会での悔しさを晴らすべく、一回りも二回りも成長した姿で夏大会に臨みたいと思います。

応援ありがとうございました。

〈令和5年度 春季大会 名古屋地区予選1位 県大会出場決定〉

名古屋地区一次予選は、名経大市邨・名古屋国際・名市工業・桜台・南陽の5校ブロックでした。

1回戦の南陽戦は、1年生投手2名が持ち味を発揮し2安打に抑える好投をしました。序盤は、本塁打などの長打が効果的に得点につながり主導権を握ることができました。6回に無死満塁から走者一掃の2塁打などで6点を取り、10対0の6回コールドで勝つことができました。初戦で、選手は「やってやるぞ」という気負いからか、力みが目立つ場面もありましたが、理想的な発進ができました。

2回戦は、シード校の名市工業高校との試合でした。同じ市立高校ということもあり、この試合をターゲットに準備してきました。2回に二死走者なしから2本の安打で失点しました。その裏にすぐに下位打線で1点を返すことができました。5回まではお互いの投手がピンチを凌ぐ展開が続きました。6回はバッテリーミスが続き失点してしまいました。その直後の攻撃で1年小粥に本塁打がでて、チームの雰囲気が一気に盛り上がり、二死からタイムリー二塁打で一気に逆転することができました。7回にも二死からタイムリー二塁打で突き放すことができました。先発八城は、毎回走者を出す展開でしたが、要所で力のあるボールで勝負して2失点で完投しました。内野失策・投捕ミスも出ましたが、ベンチの雰囲気は常に前向きで、チームが一つになって戦い勝利を掴み取ることができました。

続くブロック決勝は、名経大市邨との試合でした。何度も名古屋地区予選で試合をしてきましたが、いつ

もロースコアの接戦の試合になる相手です。この試合も3点勝負と腹をくくって試合に臨みました。

3回到4安打2四球の攻撃で3点先取し主導権を握ることができました。4回到本塁打を打たれ3対1で終盤に入りました。好機は作るものの得点に繋がらず、我慢の試合展開になりました。投手八城も6回以降毎回先頭打者を出塁させる苦しいイニングが続きましたが得点を与えることなく9回を迎えました。9回は一死満塁のピンチでした。内野ゴロで1点を与えましたが、二死23塁のピンチを凌ぎきり接戦を3対2で勝ちきることができました。好機に1本出ているともう少し楽な展開に持ち込むことができましたが、選手の集中力・一体感・ベンチの雰囲気は素晴らしく、全員で県大会を勝ち取ったことを実感できる試合でした。

名古屋地区トーナメントでは、1回戦中部大春日丘との対戦でした。前回の決勝トーナメントの対戦で後半まで粘り強く戦えたので、後半勝負をもくろみ後攻を選択しました。しかし、1次予選で好投した八城が立ち上がりから制球を乱し、初回到1安打5四球1失策で4点を取られました。1回裏の攻撃で相手の失策にも助けられ2点を取り試合を立て直す兆しがありましたが、2回にも投手の立ち直りの兆しが見られないまま3失点を重ね試合が決まってしまいました。2番手以降の投手も持ち味が出せないまま一方的な展開になり、5回コールドで大敗してしまいました。春日丘の打撃はすさまじく力の差を痛感させられた試合でした。

この春季大会では、5季ぶりに県大会出場を決めることができました。秋季大会の悔しさを胸に「絶対に春は県大会を決める」と強い覚悟で冬季練習に取り組んできた成果が表れました。県大会では、名古屋地区予選の反省を整理して、桜台らしい試合ができるよう準備したいと思います。

〈令和4年度 秋季大会 名古屋地区予選 1次予選惜敗〉

名古屋地区一次予選は、名経大高蔵・名市工芸・菊華・桜台・瀬戸北総合の5校ブロックでした。

1回戦の瀬戸北総合戦は、1年生投手が持ち味を発揮し、攻撃陣が積極的な打撃で援護する理想的な展開に持ち込むことができました。5回以降は好機に長打が出て14対5の7回コールドで勝つことができました。

2回戦は、シード校の菊華高校との試合でした。前チームから引き継いだ「打倒私学」に向けてチームが一つにまとまり、集中力高く試合に臨むことができていました。2回到失策から先制点を取られ、4回には2死から2点タイムリー安打を打たれ劣勢になりました。しかし、生徒の集中力は途切れることなく4回の攻撃では効果的に打線につながり4得点で逆転することができました。投手八城も安打や失策で出塁は許すものの3つの併殺などで要所を凌いでいました。しかし、7回到この試合初めての四球をきっかけに2死から相手の勝負強い打撃で2点を取られ再逆転されてしまいました。8回走者2塁、9回走者3塁と一打同点の好機を作りましたが、相手投手に気迫で上回れ、得点に繋げることができませんでした。結局4対5で試合終了となり、目標の「打倒私学」を果たすことはできませんでした。2死から好機での勝負強い打撃が勝敗を分けた試合でした。

敗者戦は、同じ市立の名市工芸高校との試合でした。初回到長打2本を含む4本の安打を打たれましたが、外野からの中継プレーで選手同士の声の連携やプレー判断がうまくでき、1失点で切り抜けることができました。3回の攻撃では、2死から6本の安打を積み重ね7得点で主導権を握ることができました。2回以降は投手が立ち直り2安打に抑え、8対2で勝つことができました。

ブロック2位決定戦は、夏大会のメンバーが多く残っている名経大高蔵との試合でした。雨上がりの猛暑で、グラウンド状況が悪く湿度の高い中での試合になりました。暑さと湿度で集中力と体のキレがいつもの状態まで上らず試合に突入してしまいました。3回到2死からタイムリー安打で先制することができました。しかし、3回の裏に同じく2死からタイムリー安打で同点とされ、4回到には失策が3つ重なり無安打で逆転を許してしまいました。さらに5回到連打で追加点を奪われました。6回の攻撃で2死からのタイムリー安

打で1点差に持ち込みました。持ち前の後半の粘り強さが発揮されることを期待しましたが、相手投手の継投にうまくかわされ、結局2対4で負けてしまいました。前日の試合でケガをした主戦投手の代わりに投手陣が頑張りましたが、相手投手陣の無四球に対して9四死球を与えたことが試合の流れや攻撃のリズムを狂わせてしまい、大きな課題になりました。

5年ぶりに1次予選敗退となり悔しい秋季大会になりました。この悔しさを胸にしっかり課題と向き合いながら秋季・冬季の練習に取り組み、春季大会では「県大会出場」を掴み取り、さらに上を目指せるチームに成長したいと思います。

〈令和4年度 市立大会優勝（台風の影響で決勝は中止）〉

新チームが始まりました。部員で話し合い、主将に草野が決まりました。草野を中心にまとまりのあるチームに成長することを期待しています。新チームは、3年生のケガの影響もあり、夏大会を経験している生徒が多いことが特徴でもあります。それに加え、1年生が高校野球にも慣れ、猛暑の中の練習に意欲的に取り組み、自分の持ち味を発揮しはじめていることを心強く感じます。

夏休みは、市立大会優勝と秋季大会県大会出場を目標に、チーム目標や徹底事項を再確認して、課題や戦術を共有しながら、徐々に勝つためにやるべきことが整理されてきています。桜台野球部の良さである「明るく・元気に・前向きに」一体感のあるチームを引き継ごうと頑張っていますが、まだまだ3年下村の域までは達していません。

市立大会1回戦向陽高校戦は、新型コロナの影響で向陽高校が出場辞退となり不戦勝という形になりました。力のあるチームで、自分たちがどれだけやれるか生徒も楽しみにしていたのでとても残念でした。

2回戦の名東高校戦は、夏大会を経験している八城が安定した投球をすることができました。打撃は積極的に仕掛けることができ18安打で10点を取ることができ、10対3の8回コールドで勝つことができました。1年生が初めて背番号を着けベンチに入り、ベンチやグラウンドで活躍する姿がとても頼もしく見えました。

しかし、9月19日に予定されていた決勝戦は、台風の影響により中止になりました。昨年のコロナによる中止に続き2年連続の中止です。生徒は今年こそ決勝を戦い、優勝を勝ち取ると強い気持ちで練習に取り組んできただけにとても残念です。決勝戦の相手菊里高校と両校優勝という形になりましたが、目標の優勝という結果は価値のあるもので今後の自信に繋げていきたいと思います。

〈令和4年度 夏の大会 2回戦進出〉

3年生は入学と同時にコロナによる学校休校が続き、部活動禁止期間を何度も繰り返し、通常通りの野球部の活動ができずコロナに翻弄されてきた学年でした。しかし、そのような厳しい状況の中でも今できることを精一杯やろうと心をぶらすことなく野球部の活動に取り組んできました。しかし、活動禁止の影響は思いのほか大きく、3年生にけが人が多く出てしまいました。夏大会前には、もう少しで復帰できる生徒が何人もいました。そこで、チーム全員が心をつにして、けが人が戻ってベストメンバーで試合ができるまで勝ち続けよう「桜台には負けられない理由がある」と大会に臨みました。

夏大会1回戦は豊田高専戦でした。2年生投手八城が先発をしました。立ち上がりは緊張から四球を出しましたが、1死満塁を併殺で切り抜けるとその後は安定した投球を取り戻し、5回を無失点に抑えることができました。攻撃では、1回・3回に川原林のタイムリー安打で先制点、追加点を挙げ、流れをつかむことができました。4回には3年生の活躍で一挙7点を取り試合を決め、10対0で5回コールド勝ちをすることができました。

2回戦の吉良高校戦では、1回2回に2死からタイムリー安打を打たれ3点の劣勢から試合が進みました。試合の流れを引き戻す1点を前半に取ろうと攻撃と仕掛けましたが、2回4回に併殺で好機を生かせず、3

対0のまま後半を迎えました。6回にスクイズで追加点を取られ試合展開が後手になってしまいました。8回にようやく2点を得点することができ、持ち前の粘り強さが出始めましたが、9回にも失点し突き放されてしまいました。5回以降毎回好機を作り、あと一本安打が出ると大きく試合展開が変わる状況でしたが、相手の好守に阻まれ好機を生かすことができませんでした。相手を上回る9本の安打で好機を作りましたが、好機での一本が出なかったことが残念です。吉良高校は、基本や戦術が徹底されており、とても守備力の高い、隙のないチームでした。

コロナの影響を強く受けた3年生ですが、心をぶらすことなく「打倒私学」「県大会出場」を目指して、主将佐藤を中心に「自覚と責任」「主体性」を高め成長し続けた学年でした。副将下村の「明るく・元気に・前向きに」高校野球に取り組む姿勢は桜台高校野球部の象徴でもありました。いろいろな困難を乗り越えた3年生は、今後どのような状況でも困難をたくましく乗り越えてくれると期待しています。

〈令和4年度 春季大会 名古屋地区予選 1次予選惜敗続く〉

秋季大会2次予選の県大会決定戦で中京大中京に大敗し、もう一度野球への取り組み方や日常生活の大切さを確認し、「打倒私学」を目指して秋・冬の練習に臨みました。生徒の意識の高まりは順調で、1月から3月にかけてのコロナまん延防止措置による活動禁止期間中は、「自覚と責任」をテーマに、主体性を発揮して部員それぞれが意識高く練習に取り組みました。しかし、活動禁止期間の影響は大きく、練習開始1週間で投球骨折やデッドボールで3年生二人が骨折し、腰痛、肩痛などが頻発してしまいました。このような状況でも持ち前のチームの一体感を大切に、「明るく・元気に・前向きに」今できることを精一杯取り組もうと春季大会に臨みました。

1回戦の中部大一高校戦では、目標にしてきた「打倒私学」を実現しようと、集中して試合に臨みました。

初回の攻撃で先制点を取り、主導権を握ることができました。中盤は、ミスからの失点で逆転されてしまいましたが、持ち前の粘り強さで7回・8回の好機にタイムリー安打が出て8回に4対4の同点に追いつき、最終回を迎えました。9回の攻撃は併殺打で好機を逸してしまいました。9回裏に四球・安打の走者を進塁させられ、申告敬遠で満塁策をとりましたが、安打を打たれサヨナラ負けで目標の「打倒私学」を逃してしまいました。中盤のミスが悔やまれますが、投手飯山が持ち味を発揮して粘り強い投球をしました。

続く敗者戦1回戦は、長久手高校との試合でした。前日のサヨナラ負けから気持ちを切り替えて、チームの一体感を大切に試合に臨みました。先頭打者柳生の二塁打で一気にチームの雰囲気盛り上がり、初回から効果的に得点を重ね、前半で試合の流れをつかむことができました。投手の柳生・大橋が四球を出しながらも要所を締め3失点に抑えました。10対3の7回コールド勝ちを収めることができました。

2位決定戦は、市立大会でコロナ感染拡大のため決勝戦が中止となり、優勝を分け合った富田高校でした。

春日井球場での試合になり、生徒の集中力はとても高く、この試合に懸ける思いが強く感じられました。初回にミスから失点しましたが、2回の攻撃で同点に追いついた後、満塁の好機に走者一掃の二塁打が出て一気に4点を取ることができました。しかし、続く3回の守りでは3安打4四球で5点を取られてしまいました。中盤も四球・失策で出塁した走者を得点に結びつけられ5点差に広げられてしまいました。終盤に川原林の本塁打が出るなど持ち前の粘り強さを発揮し1点ずつ積み重ねましたが、一打同点の好機を二度ありましたが得点することができず、7対9で負けてしまいました。二番手投手の八城が好投していただけて投手交代のタイミングが遅れたことが悔やまれます。

「打倒私学」「県大会出場」を目指して臨んだ大会でしたが、あと一步のところまで目標達成することができませんでした。この悔しさを胸にコロナでの活動制限がある中でも、「自覚と責任」「主体性」を高めて活動に取り組み、けが人の復帰を期待しながら、夏の大会に向けて成長していきたいと思います。

〈令和３年度 秋季大会 名古屋地区予選

二次予選進出も県大会決定戦で中京大中京に完敗〉

秋季大会はＢブロック、瀬戸・桜台・愛産大工業・昭和（他１チーム辞退）のトーナメントでした。

１回戦の瀬戸高校戦は、１回・３回に二死からタイムリーを打たれ２点先行されてしまいました。しかし、３回の攻撃で打線がつながり３得点で逆転し、４回・５回にも１点ずつ取り流れをつかんで５対２で前半を折り返すことができました。しかし、５回終了後のグラウンド整備中に雨が降り出し、６回の守備ではかなり強い雨になりました。雨の中で投手の制球が乱れ、ぬかるんだグラウンドで打ち取った打球もアウトにすることができずに３四球２失策などで一挙５点を取られ、７回にも２点を取られてしまいました。相手投手は、ストライクゾーンにどんどん投げ込みリスクを回避した投球ができていました。結局、７回にさらに雨が強くなり、試合継続困難になり降雨コールドで負けてしまいました。

敗者復活１回戦の昭和高校戦は、序盤から得点を重ね主導権を握り、６回表で１０対０になりました。あと１イニング抑えるとコールド勝ちが決まるところでしたが、６回１点、７回３点を取られてしまいました。試合は１０対４で勝つことができました。

２次予選進出を懸けたブロック２位決定戦は、ふたたび瀬戸高校との試合になりました。１回戦雨天で制球を乱した飯山に、再度期待を込めて先発を託しました。立ち上がりに１点は取られたものの、その後は粘り強く丁寧に投げ抜き、エラーが絡んで２失点しましたが、９回を６安打２四球３失点で好投しました。打線も飯山の好投に迎え、４回に７本の安打で一挙６点を挙げ試合の流れをつかみ、６回・７回にも手堅く１点ずつを加え、８対３で勝ち、雨天コールドの悔しさを晴らすことができました。

２次予選１回戦は、旭丘高校との試合でした。先発柳生は、序盤から制球が甘く、４回までに９本の安打を打たれながらも要所で併殺を取るなど野手がしっかり守りました。打線も４回に下位から上位に打線がうまくつながり５得点し、流れを持つことができました。７回・９回にもスクイズなどで１点ずつ加え、７対２で勝つことができました。

県大会決定戦は、相手が中京大中京高校でした。誰もが知る全国区の強豪ですが、名前負けせずに自分たちの持ち味を出して、粘り強く戦い抜こうと臨みました。しかし、先発柳生が意気込みすぎて、初回に無安打ながら３四死球とエラーで先取点を奪われてしまいました。２回には、スクイズで１点を取られた後、二死満塁でショートゴロをファンブルしてしまい、動揺した雰囲気が一気に広がってしまいました。まだ序盤での３点差なので、タイムを取り気持ちを落ち着かせようと思いました。しかし、気持ちの動揺を立て直す隙を与えてもらえず、一気に攻め立てられ６連打などで一方的な展開になり、自分たちの持ち味が出せないまま勝負が決まってしまいました。

しかし、この試合から学んだことは多く、野球への取り組み方や試合への準備の仕方、一球に対する執着心、チームの一体感などを吸収し、成長につなげていきたいと思います。

この大会を通して、手応えと課題がはっきりしました。今後に生かして、春季大会は必ず県大会に出場したいと思います。

〈令和３年度 市立大会優勝（緊急事態宣言で決勝は中止）〉

新チームがスタートしました。３年生が引退し、レギュラー争いが横一線から始まりました。２年生が最上級生として自覚を持ち、１年生がはつらつとプレーしている姿が頼もしく感じます。市立大会優勝と秋季大会県大会出場を目指して、夏休みの猛暑の中の練習や練習試合に臨みました。課題はたくさんありますが、

徐々に勝つためにやるべきことが整理されてきています。桜台野球部の良さである「明るく・元気に・前向きに」一体感のあるチームを引き継ごうと頑張っていますが、まだまだです。

市立大会 1 回戦名東高校戦は、肩の故障を乗り越えて、新チームスタートに間に合わせた飯山の好投もあり 6 対 2 で逃げ切ることができました。夏休み中の試合は、猛暑の中での試合が続くので 6 対 0 からコールドを決めるあと 1 点が取れないことが大きな課題でした。

2 回戦の名市工業戦は、エース争いを期待する柳生が、立ち上がりの連続四球から立ち直り、粘り強く投げ、6 回 2 失点で切り抜けることができました。打線も前日の反省を生かして、機動力を使いながら好機に安打が出て 1 1 対 2 で 7 回コールド勝ちにすることができ、決勝進出を決めました。

秋季大会を控えたこの時期にパロマ瑞穂球場の広いグラウンドで試合ができることは大きな経験になります。また、この 2 試合を勝ったことでチームとしても大きな自信が芽生えはじめました。

しかし、9 月 20 日に予定されていた決勝戦は、コロナによる緊急事態宣言のため中止になりました。決勝戦の相手富田高校と両校優勝という形になりました。中止は残念ですが、目標の優勝という結果は大いに価値のあるものになりました。

〈令和 3 年度 夏の大会 2 回戦進出〉

4 月の新学期が始まってから活動制限が厳しくなり、6 月上旬まで休日の活動が禁止になりました。GW も活動することができず、休日の活動が解禁になったのが 6 月中旬でした。生徒が一番成長できる時期に練習試合や実践練習ができなかったことは残念でしたが、生徒は今できること、やるべきことを明確にして、心をぶらすことなく主体的に取り組んでいました。

1 回戦は、名古屋工業と対戦しました。夏の大会独特の緊張感がありましたが、1 回表の守備で二死満塁のピンチを切り抜け、1 回裏の攻撃で 1 番藤田の左前安打で勢いに乗ることができました。中野・星子・佐藤の勝負強い打撃で 1 回 3 点、2 回 3 点を取り主導権を握ることができました。先発星子も粘り強く投げ、1 失点完投し、7 対 1 で勝つことができました。

2 回戦の明和高校は、激戦の名古屋地区から公立校として連続で県大会に出場している力のあるチームでした。相手を分析して臨んだ試合でしたが、警戒していた 1・2 番打者に安打されて勢いの乗せてしまい、1 回 3 失点、2 回 6 失点と主導権を握られ、桜台らしさが出せないまま終わってしまいました。二番手投手荒川が持ち味を出して 3 イニングを無安打に抑える好投をしていただけない、悔やまれる立ち上がりでした。

昨年の 4 回戦進出を目標に臨んだ大会でしたが、結果としては残念なものになりました。しかし、コロナ禍で思うように活動できない中でも、心をぶらすことなく主体的に野球に取り組み、秋季大会では、9 年ぶりの県大会出場をつかみ取ってくれました。3 年生はとても仲の良い学年で、3 年間の野球部の活動を通して、技術・体力の成長とともに、心の成長を大きく実感することができました。

〈令和 3 年度 春季大会 名古屋地区予選 決定戦で県大会逃す〉

秋季県大会に出場し、自分たちはできるんだという自信を胸に、敗戦からの課題を明確にしながら冬の練習に取り組んでいました。しかし、コロナ感染拡大による緊急事態宣言、まん延防止措置により 1 月以降練習ができない状態が続きました。特に市立高校の活動制限は厳しく、ぶっつけ本番の状態に大会に望まなくてはいけませんでした。

1 回戦の春日井西高校戦では、実戦不足もあり、立ち上がりに連打で 2 点を先制される嫌なスタートでしたが、中盤から打線がつながり 10 対 3 の 7 回コールドで勝つことができました。

ブロック決勝の大同大大同戦は、好投手から点を取ることが勝負の鍵として臨みましたが、外角球の出し入れに対応できず、得点することができませんでした。投手も前半はよく粘っていましたが、4回に4四死球と送球ミスもあり一挙6失点で勝負が決まってしまいました。

シード校として臨んだ大会で1位通過を目指していただけないととても悔しい思いをしました。

気持ちを切り替えて臨んだ2位決定戦は、同じ市立高校で厳しい活動制限の中チームを上げてきた名東高校でした。試合の入り方を大切にしようと臨んだ試合でした。生徒の集中力は素晴らしく、1回の攻撃で5連打を含む7安打を集中させ、9番打者が満塁本塁打を打つなど、一挙8点を取ることができました。最終的には12対5で2次予選進出を決めることができました。

2次予選は、秋季大会で県大会に出場したことで1回戦シードとなり、決定戦1試合に勝てば県大会が決まる試合でした。相手の豊明高校は粘り強いチームで接戦になることを予想していました。

両投手とも持ち味を発揮して締まった投手戦になりました。4回に甘く入った球を2点本塁打されましたが、すぐに2点を返し、同点で終盤に入りました。7回に2塁打2本で1失点、8回に交代した1年生投手の四球と悪送球などで1失点しまいました。2点差の9回の攻撃では、無死2・3塁の好機を作りましたが、好機であと1本が出ずに2対4で負けてしまいました。

2季連続の県大会出場を目指して臨んだ大会でしたが、好投手からいかに好機を作り、得点につなげるか、プレッシャーのかかる場面でいかに力を発揮できるかが大きな課題になりました。しかし、厳しい活動制限の中、主体的に取り組んできた成果が発揮された大会でした。

〈令和2年度 秋季県大会 1回戦敗退〉

9年ぶりに秋季県大会に出場することができました。

1回戦で碧南高校と対戦しました。久しぶりの試合ということもあり、チームの持ち味である一体感や明るさが影をひそめ、どこことなく硬さが感じられるところがありました。序盤から地に足がつかず、持ち味を出せないまま3回に先取点を取られてしまいました。3回以降は7回以外のすべてのイニングで先頭打者の出塁を許す苦しい展開になりました。何とか後半勝負に持ち込もうと粘り強く戦っていましたが、8回までに6点を取られてしまいました。攻撃も毎回のようには安打は出ましたが、相手投手の低めに集める丁寧な投球に好機を生かすことができず、相手の好守にも阻まれ8回まで得点を奪うことができませんでした。しかし、9回に代打で出場した1年生たちの活躍で3点を取り意地を見せることができました。伝統の後半の粘り強さを見せてくれました。

コロナ感染対策による市立高校の練習試合禁止が解除されず、地区予選後練習試合ができないままこの県大会を迎えました。また、猛暑時期の熱中症対策による練習禁止期間もあり、調整不足は否めませんでした。しかし、この状況を部員は誰ひとり言い訳することなく、自分たちの力のなさに目を向けて敗戦から課題を見だし、春季大会を見据えて常に前に進もうとしている生徒たちの姿は、とても誇らしく思います。

この県大会での悔しさを晴らすべく、一回りも二回りも成長した姿で春季大会に臨みたいと思います。応援ありがとうございました。

〈令和2年度 秋季大会 名古屋地区予選 県大会出場決定〉

新チームで迎えた秋季大会では、名古屋地区1次予選の名市工芸戦、瀬戸窯業戦を2連勝で勝ち抜き、ブロック1位で県大会出場を決めることができました。コロナ感染対策による練習時間削減や猛暑の中、選手はチームモットーの「一心」でチームがまとまり、明るく元気に粘り強く戦いました。

続く名古屋地区決勝トーナメントでは、1回戦名経大市邨高校との対戦でした。昨年の秋季大会で、ブロック2位校による県大会決定トーナメントで2対3のサヨナラ負けを喫した相手です。捕手中野の工夫した配球に1年生投手が丁寧に投球し、粘り強く接戦に持ち込むことができました。9回に2点を奪い3対2で逆転勝ちをすることができました。

決勝トーナメント2回戦は中部大春日丘との対戦でした。点の取り合いの展開になり、7回終了時点で5対7と強豪相手に粘り強く戦っていましたが、8回2失点・9回3失点で突き放され、最終的には5対12で負けてしまいました。1回・6回・7回の3度の満塁の好機をダブルプレーやスクイズ失敗などで得点できなかったことが悔やまれます。また、投手陣の層の薄さが露呈しました。2年生投手陣の奮起、打撃の向上、ワンプレー・1球の大切さなど、県大会に向けて大きな課題を得ることができました。

3年連続であと1歩のところまで県大会出場を逃した先輩たちの悔しい想いを、予選ブロック1位通過という形で「県大会出場」を決めることができました。先輩たちの想いも胸に9月12日からの県大会で桜台高校らしい試合を展開していきたいと思います。

〈令和2年度 夏季大会 4回戦進出〉

令和2年度の夏の大会は、コロナ感染防止対策の学校休校の影響もあり、十分な練習や練習試合などの実戦経験を重ねることができませんでした。しかし、休校中や少ない練習時間の中で生徒一人ひとりが自覚を持ち、自主自立で主体的に練習を工夫して努力を重ねてきました。

夏季大会は、市立高校の練習開始日程が遅れたことを考慮していただき2回戦からの出場になりました。

2回戦の名東高校戦では、緊迫した投手戦になりましたが、伝統の粘り強さを発揮して、終盤のピンチを凌ぎきり3対2で勝つことができました。

3回戦の天白高校戦は、平成30年度に3回戦で負けた相手でもあり、生徒の「絶対勝つ」という強い気持ちと集中力は素晴らしいものがありました。序盤から主導権を握り、理想的な展開で8対1の7回コールドで勝つことができました。

4回戦は至学館高校との対戦でした。2回戦4安打完投・3回戦3安打完投と好投した投手松原が、強豪至学館相手に逃げずに真っ向勝負で挑みました。甲子園出場経験のある強豪校は1枚も2枚も上手で、力の差を見せつけられる展開になりました。しかし、松井が相手のエース投手から本塁打を打つなど意地を見せてくれました。

試合は3対13で負けましたが、雨の中、桜台らしい明るく元気で前向きな姿勢を貫くことができました。